国際交流

平成９年９月30日創刊
平成25年3月31日発行（第31号）
二松学舎大学国際交流センター（教学課）
〒102−8336東京都千代田区三番町6−16
Tel:03-3261-7406

◆目　次◆

平成24年度交流会実施報告 …… 1
　国際政治経済学部　国際政治経済学科4年　戴捷
平成24年度第9回外国人留学生日本語スピーチコンテスト開催 …… 2
学長賞受賞スピーチ …… 3
　国際政治経済学部　国際政治経済学科2年　全剣波
平成23年度派遣留学修了報告 …… 4
　文学部4年　豊田美穂
　文学部4年　礒江厚綺
附属柏高校生との交流会 …… 6
　国際政治経済学部　国際政治経済学科2年　康政
　国際政治経済学部　国際政治経済学科4年　戴煬
　交換留学（台湾・中国文化大学）張楷培
平成24年度国際交流年末懇親会報告 …… 7
平成24年度奥井基繼奨学金授与式の実施 …… 8
平成25年度春セメスター　派遣留学生紹介 …… 8
国際交流センターからのお知らせ …… 8
　団体割引でTOEFLを受験しよう！
　　－TOEFL-ITP試験実施のお知らせ－
　オーストラリア・韓国への派遣留学生募集説明会
　中国語・歴史文化研修募集説明会
　編集後記

平成24年度交流会実施報告

山梨の日帰り旅行

国際政治経済学部　国際政治経済学科４年　戴　捷

留学生の私が二松学舎の交流会に参加するのは3回目で、そろそろ卒業の私にとって、皆と一緒に旅するのは今回が最後。とてもよい思い出になりました。

朝の7時に新宿駅に集合し、出発しました。前回と前々回は貸切りバスでしたが、今回は知らない人がたくさん一緒に乗ったので、別の雰囲気を感じました。東京からちょっと遠いので、バスでけっこう時間がかかりました。

日本に来て5年目ですが、東京圏外であまり遊ばなかったので、山梨と言っても地名以外にはほぼ何も知らず、途中ガイドさんの話を聞いたり、風俗や特産を携帯で調べたりして、いろいろ理解しました。

バスの中で3時間経ち、第一目的地の葡萄園に着きました。ガイドさんが葡萄の品種を簡単に紹介して、皆を食べ放題のところに案内しました。今回の主なイベントは、30分間ゆっくり葡萄を味わうこと。葡萄園を見ながら食べるのはとても楽しかったです。楽しい時間はいつも早く過ぎていきます。30分はあっという間でした。

葡萄園を離れ、次の「清里ハイランドパーク」と言うところに向かいました。途中、ナチュラルバイキングで豊富なランチを食べ、私たちはケーブルカーに乗って山頂まで到着しました。冬にはスキー場になる場所なので、眺めがよい所です。

清里ハイランドパークの後は、「美し森」と言うところです。その名の通り、木がたくさんあって美しい場所です。空気がすごく新鮮で、この中を歩くと心が澄み、全身がリラックスしてとてもよい気持ちでした。東京へ帰る途中には、窓から山梨県の東沢大橋や農場も見え、本物の乳牛も初めて見ました。

短くても、私は今回の旅を本当に楽しむことができました。前回と比べると、人数や日数が少なかったと思うのですが、旅で大切なのは、そういうことではないと思っています。大切なのは、旅行する気持ちと、一緒に旅する人々です。この2つの要素があれば、近場の日帰り旅行も楽しいです。

参加した仲間と葡萄園にて（筆者・中央）

平成24年度第9回外国人留学生

出場した留学生、渡辺学長及び審査員の先生方

平成24年12月8日、九段キャンパス1号館202教室にて、第9回外国人留学生日本語スピーチコンテストが開催されました。今回は、海外協定校からの交換留学生2名を含めた、中国と台湾からの留学生4名が出場。日頃の学習の成果を披露しました。

最優秀賞である学長賞に選ばれたのは、中国からの留学生で国際政治経済学部国際政治経済学科2年の全剣波さんです。タイトルは「縁」。二松学舎と自分との間に感じた不思議な縁や、素晴らしい出会いを、実に堂々と発表してくれました。

また、「成長する旅」を発表した楊帆さんは、家族と北海道を旅行した体験から感じた気持ちの変化をスピーチし、劉雨瑄さんは、自国独自のバイク文化をユーモラスに紹介。また、張楷培さんは、携帯電話に頼らないコミュニケーションの大切さを訴えました。

4名それぞれが異国の地で切磋琢磨し学業に励む中、準備してきたスピーチコンテスト。発表を終えた後、出場者たちが皆ほっとした表情を見せ、日本語能力を試す素晴らしい機会になったと語っていたのがとても印象的でした。来場した学生や教員、父母会の方たちにも、彼らの努力の成果が伝わり、留学生にとってよい刺激になったことと思います。

◇学長賞

「縁」

国際政治経済学部

国際政治経済学科2年

全　剣波

◇父母会賞受賞

「成長する旅」

国際政治経済学部

国際政治経済学科1年

楊　帆

◇国際交流センター長賞

「バイクパラダイス」

交換留学（台湾・中国文化大学）

劉　雨瑄

◇審査員特別賞

「携帯電話」

交換留学（台湾・中国文化大学）

張　楷培

日本語スピーチコンテスト開催

学長賞受賞スピーチ
「縁」

国際政治経済学部　国際政治経済学科2年　全　剣波

2年半前、私は高校3年生でした。交換留学生として、初めて飛行機に乗って異国の地を踏みました。岡山県国際空港に降り、学校のバスに乗って最初に行った所は、三島中洲先生の故郷、倉敷市でした。中国の蘇州のような綺麗な所でした。そこでラーメンを食べてまたバスに乗り、三島先生の師匠となる山田方谷の故郷、高梁市を通って学校の所在地の新見市に到着しました。

夜になり、校長先生と理事長先生が迎えに出てくださいました。校長先生は二松学舎大学国文学科の卒業生でした。今は退職され、岡山県議会議員になっています。本当に優しい方でした。最初、日本の食べ物が口に合わなくて困った時、韓国料理店に連れて行ってくれたり、キムチを買ってくださったりしました。二松学舎大学の入学試験に合格した時「先輩だと言っていいよ！」と言ってくれて本当に嬉しかったです。

一番印象に残ったのは、校長先生と結婚の話をした事です。ある日、校長先生と結婚の話をした時、私は「中国ではお金がなかったら結婚できません。お金持ちになって結婚します。」と言いました。それに対して校長先生は「お金を人生の目標としてはだめです。一生懸命頑張っていい人に成れば、お金も自然についてきます。自分の目標を探しなさい。」と言ってくれました。その時は理解出来なかったのですが、今考えて見れば、孟子の言う「天爵を修めて人爵これに従う」の事ではないかと思います。

このように見ると、私は二松学舎と縁があると思いませんか？

しかしながら、私はこの縁を大事にしませんでした。去年、うつ病になって学校に全然来られなかったし、大学を辞めて国に帰る気持ちもありましたが、儒教の『中庸』に、「性に率うをこれ道と謂ふ」と言う文章を見て、今の自分は真の自分ではない事に気付きました。以前から私が大好きな馬を、自分の生活の基盤にしようと思ったのです。

そして、大学の勉強は必要ないと思っていたことも、ある事がきっかけでこの考え方を捨てるようになりました。そのきっかけとは、ある場所で会った日本人を見たことでした。二松学舎の先生のご紹介のおかげで、以前、競走馬の馬主さんと競馬場の馬主VIPルームに入ることができました。中には日本で数えるくらいのお金持ちの人がいましたが、品がなくただのお金持ちの人もいて「私はあんな人になってはいけない」と思いました。やはり人生の目標は、何もかも手に入れることではなく、自分で行動を起こして初めて何かを手に入れる事、それが大事なのだと知り、そのためには大学で学ぶ事が何より大切なことだと悟りました。

だから、二松学舎大学を受けて本当に良かったと思います。今、改めて二松学舎との縁を感じています。そして、この二松学舎大学で漢学と国際的経済政治を一緒に学んで、新渡戸稲造のような真の国際人になることを目標として、もっともっとこれから勉強に励みたいと思います。

堂々とスピーチする全剣波さん

日頃お世話になっている塩田先生と

平成23年度派遣留学修了報告

中国・北京大学

文学部4年　豊田　美穂

留学生の仲間と（筆者・右）

中国は隣国ですが、やはりそこは外国。北京大学は日本人留学生が多いとはいえ、時々言いようのない不安や孤独な気持ちに襲われる事も少なくありませんでした。しかし、そんな私を支えてくれたのは北京で出会ったたくさんの友達です。中でも初めから約半年間一緒に生活していた2人のルームメイトは、この一年間私を大きく成長させてくれ、支え続けてくれました。留学が決まった時から一番心配だったのは、ルームメイトとの寮生活でした。周りの日本人留学生の中でも、ルームメイトとトラブルになっている人は少なくありませんでした。ですが私は本当に幸運で、最高のルームメイトと出会う事が出来ました。

香港出身の本科生と韓国の交換留学生のその2人は、思いやりのある、それでいて自分の考えをしっかり持った素敵な2人でした。私達は国籍も母国語も育った環境も全く違いましたが、お互いに理解、尊重し合いとても賑やかで楽しい毎日でした。毎日3人で他愛ない話や、時には自分達の国の文化や国際関係といった敏感な話題も遠慮なく話し、その中で互いの様々な発見に驚きの毎日でした。また2人は私自身気付かなかった長所や短所を見つけてくれ、自分を見つめ直す事が出来ました。会話での共通言語はもちろん中国語なのですが、時々英語に広東語、韓国語そして日本語を交えて話す事もあり、発音が似ている単語の発見やそれぞれの文法の相違点を話す日も良くありました。そうして毎日を過ごすうちに自然と会話力が身についていき、それと同時に外国語を学ぶ楽しさを改めて心から感じる事が出来ました。彼女達との毎日のおかげで、クラスでも積極的に他の留学生と交流ができました。

留学生クラスでは私達日本人を含め各国の中国語の訛り方や授業中の態度、発言の違いに気付く事ができ、日本では絶対にできない発見がありました。また先生方もとても優しく明るい方で、毎回充実した楽しい授業でした。後半の半年間、本科の中文系の授業を受けてからは、また全く違う授業の雰囲気に圧倒されました。中文系の留学生授業を選択していたのですが、どの留学生も中国人の本科生に負けないぐらい優秀で熱心に勉強している姿が印象的でとても刺激を受けました。

放課後や休日は友達と色々な場所に出かけ、また長期休みは旅行に行きました。同じ中国でも、各地域で人も空気も食べ物も言葉も習慣も、何もかもがそれぞれに違い、その土地に根付く文化や歴史は、行かなければ絶対に感じる事の出来ない壮大で力強いものでした。旅行の中で特に印象深いのは、春節の長期休暇に計画した、生まれて初めての一人旅です。この旅行は私の視野を更に大きく広げてくれました。北京を離れ、上海、アモイ、金門島の10日間。頼れるのは自分だけ。ひたすら歩いて話したこの旅行は、私に自信と一歩踏み出す勇気を与えてくれました。

2人のルームメイトは、今でも手紙やメールで連絡を取り合う親友です。他にもたくさんの留学生や中国人の友達と出会う事が出来ました。アモイのユースホステルで出会った台湾のお姉さんは、たった2日間同じ部屋に泊まっただけですが、今でも連絡を取り合う仲です。ちょっとした出会いが出会いを呼び、そうして人は縁で繋がっています。私がこうして二松学舎大学に入学し北京大学留学に応募したのも、きっと何かの縁なのでしょう。

私は今回の交換留学で、現地の生きた中国語を学べただけではなく、人と人との“縁”の大切さを改めて実感し、またたくさんのかけがえのない素晴らしい出会いを得る事が出来ました。これからも中国語を使って、縁の繋がりを広げていきたいと思います。

口語クラスのみんなで食事

台湾・中国文化大学

文学部4年　礒江　厚綺

一昨年の9月、台湾での留学生活が始まりました。今まで旅行で台湾を訪れたことはありましたが、1年間に及ぶ滞在は初めての経験でした。いざ留学生活を始めてみると、日本と台湾の習慣の違いを肌で感じ、時には戸惑うことはありましたが、次第に慣れていき、とにかく毎日刺激のある生活でした。

授業は毎朝8時からスタートしました。日本にいた時より1時間早く始まり、下校時刻は遅いときで夜7時だったので、体を慣らすのに少々苦労しました。しかし、それよりも苦労したのが、中国語のみで行われる授業に置いていかれないように必死で着いていくことです。留学をする前は、何とかなるだろうと思っていましたが、いざ授業が始まると意味の分からない単語が次々に出てきます。必死に辞書を捲りますが、間に合わない時もあります。そのような時には、ひとまず発音をメモして、後程調べるなどしました。また、宿題の量も多かったのも印象的でした。

私が留学生活で心掛けたことは、現地に住む人となるべく交流することです。日本では言葉を習う機会はたくさんあっても、実際に使う機会は少なかったので、台湾にいる1年間は現地人との交流を積極的に行いました。具体的には、留学先である中国文化大学の学生と週に一度の「日本語コーナー」を通じて交流しました。「日本語コーナー」とは、日本語に興味のある台湾人学生と、日本の大学から留学してきた交換留学生の言語交換の場であり、毎回台湾人学生の興味のあるテーマに沿って、言葉の言い回しや、その方面特有の固有名詞を教え合う時間のことです。

日本語コーナー以外に、放課後は私の趣味である野球観戦のために野球場へ行き、ファンのみなさんと野球談義をさせてもらいました。このような会話の時に出てくる単語や言い回しで気になったものはメモして、忘れないようにしました。野球場で出会ったファンのみなさんは、大変熱心なファンが多く、日本のファンでは出会ったことのないような、また違った視点で野球を見ている方もおり、新たに気付かされることが多々ありました。また、縁あって台湾プロ野球チームでボランティアをさせてもらう機会を得て、球団の事務の手伝い、試合前や試合中のイベントの手伝い、しばしばやって来る日本人の台湾プロ野球ファンへの案内など、様々な貴重な経験を得ることができました。

この一年間、お世話になった全ての方に改めて感謝すると共に、今後は今までに得られた貴重な経験を生かして、日台の架け橋になれるよう努力して行きたいと思います。

留学生仲間と一緒に（筆者・右から2番目）

野球ボランティアでの一コマ（筆者・右から2番目）

附属柏高校生との交流会を実施しました

平成24年11月29日（木）、附属柏高校生との交歓交流会が実施され、同校1年生の生徒と本学在籍留学生6名が交流を行いました。今回初参加の留学生が多かったためか、最初は緊張した様子でしたが、各クラスで高校生と話すうちに、次第に打ち解けて和やかな雰囲気で交流を行うことができました。留学生たちはそれぞれの自己紹介をはじめ、日本へ留学したきっかけや、自分の母国での高校生活、日本の高校生の印象について発表。また、若者に人気のスポットの写真や自国のお菓子などを紹介することによって、最初は受け身の姿勢だった高校生たちとも次第に打ち解け、生徒全員で大いににぎわいました。双方にとって、互いの文化理解を深める貴重な体験となったようです。

国際政治経済学部　国際政治経済学科2年　康　政

留学生交流会は、とても楽しかったです。皆さんのご協力に感謝します。交流会に参加するのは初めてなので、とても緊張しました。教壇に立つと頭が真っ白になって、自己紹介で何をしゃべったかも忘れました。でも、皆の笑顔を見て和らぎました。

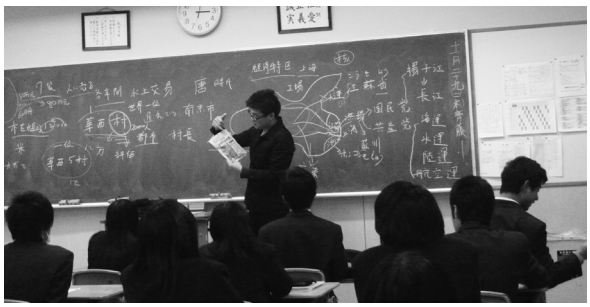
普段の生活では、日本の高校生と交流する機会はあまりないため、高校生が中国についてどのようなイメージを持っているのか好奇心を持っていました。今回の場を借りて、皆さんに質問してみました。結果、「人口が多い」「中国人は気が強い」というイメージがあることが分かりました。その後は、皆の名前の中国語読みを教えてあげました。多少読み方が分からない漢字がありましたが、意外と反応がよかったです。皆、発音のまねをしたり笑ったり、中国語に興味を示しました。終了間近になると、私自身のプライベートについて質問されましたが無事に終了し、とても楽しい時間を過ごせました。今回の交流会は、私にとって貴重な経験になりました。皆さんもちゃんと勉強し、ちゃんと遊んでくださいね。機会があれば、中国に遊びに来てください。

国際政治経済学部　国際政治経済学科4年　戴　煬

今回、初めて日本の高校生と交流することが出来、皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。中国文化が感じられる食品（料理）、雑誌などを充分用意していくつもりでしたが、手元には僅かな食べ物しかなくて大変申し訳ないと思いました。

朝、早く起きて高校生の皆さんに用意したプリントを整理し、頭の中で話の内容を繰り返し考えていました。遅刻しないように早く出掛けたら、天気が良いことに気づき、久し振りに柏キャンパスを周ったりして、2年前の柏キャンパスでの学生生活をもう一度思い出してみました。

高校に入った瞬間、懐かしいと思いました。担当者の



中国の食品を紹介する戴煬君

方から高校に関する紹介を受けたとき、日本の高校生が異文化に接するのは、とても素晴らしいと思いました。私の高校時代はなかなかこういうチャンスはありませんでした。クラスに入ってみると、高校生の皆さんが意外と静かで恥ずかしがり屋の方が多かったです。自国のことを伝えながら、理解してもらうために地図を書いたりプリントを配ったりすると、真面目な顔をして聞いてくれて、急にやる気が湧いてきました。経済のことにも触れましたが時間がなく、理解してもらえたかどうか分からず終わらせてしまったのが残念です。

最後に高校生から質問がありました。「中国で一番おいしいものって何ですか」や「中国と日本の違いは何ですか」、「彼女はいますか」等があり、全部はっきり答えました。

自国の文化や経済状況を、異国の学生に伝えるチャンスがあることは、私たち留学生にはとても嬉しいことです。私は日本語の勉強を始めた時からずっと、日中友好交流に力を入れようと思っていたので、今やっと実現出来たことに、とても喜んでいます。

これからも今回の経験を忘れず、多くの日本人の方々と交流し、日中友好交流が確実に実現するまで頑張っていきたいです。

交換留学（台湾・中国文化大学）　張　楷培

実は交流会に行く前、全く緊張することがなく、わくわく楽しみな気持ちだけでした。日本の高校生と交流する機会は少ないので、本当に嬉しかったです。行く前の準備はどうやるのか分からず、台湾の食べ物や文化、生活等何がいいかなと思いました。しかし最後には、とにかく高校生とリラックスしてしゃべろうと思い、簡単に自己紹介を準備し、忘れてしまった台湾の食べ物の読み方を調べました。

参加した留学生の皆さん

行く前は、自分が高校の先生になったような感じがして、わくわくしました。台湾の物を何か見せたかったのですが、残念ながら台湾から持ってきたおみやげは全て配り終わってしまっていました。

教室に入った時、皆の歓迎ぶりや拍手の音にびっくりしました。黒板にも挨拶の絵や歓迎の言葉がいろいろ書かれていて、高校生たちの熱意に感動しました。最初、担任の先生が簡単に紹介してくれ、後は全部私の時間だと言われてびっくりしました。先生と私の一問一答形式でやると思っていたのですが、私は本当に高校の先生になってしまい、とても緊張しました。何をするのかわからず、とりあえず自己紹介をしたら、やっと気持ちが落ち着きました。そしてだんだんと、おしゃべりを楽しむことが出来ました。話題は限定せず、映画や漫画、俳優の話もあり、とても面白かったです。もしまたチャンスがあれば、絶対もう一度参加したいと思います。とても貴重な体験でした！

平成24年度国際交流年末懇親会を開催

平成24年12月8日（土）、九段校舎13階多目的ホールにて、国際交流年末懇親会が行われました。当日は、留学生や関係教職員をはじめ、父母会役員、学生会の学生たちも出席し、にぎやかな会となりました。渡辺学長からご挨拶を頂き、続けて岩田父母会長による乾杯のご発声でスタート。途中、同日開催された外国人留学生日本語スピーチコンテストの授賞式も行われ、会場中から出席した留学生らに拍手が送られました。本学国際交流の今後にも多くの期待の声が寄せられる中、幕を下ろした懇親会。今回も父母会のご支援により盛大に実施できましたことを、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。来年度も多くの方々のご参加をお待ちしています。

平成24年度奥井基繼奨学金授与式の実施

奥井基繼奨学金は、本学に在籍する外国人留学生の勉学を助成し、学生生活を支援することを目的に助成されています。平成24年度奥井基繼奨学金（第一種）の授与式は、平成24年12月8日（土）に開催された国際交流年末懇親会において、実施されました。奨学生に選ばれた6名には、奥井基繼氏に代わり、渡辺学長が一人ひとりに証書を授与し、激励の言葉を送られました。

平成25年度春セメスター派遣留学生紹介

本学には、「二松学舎大学交換留学に関する規程」に基づく、海外協定校への1年間の派遣留学制度があります。留学先となる協定校は全部で4校（中国・北京大学、韓国・成均館大学校、台湾・中国文化大学、オーストラリア・シドニー工科大学）であり、協定校によって、応募期間や資格等、派遣条件がそれぞれ異なります。詳細は「海外留学の手引き2013」を参照ください。

平成25年度派遣留学生

◆韓国・成均館大学校（派遣期間：2013年2月～2014年1月）

文学部中国文学科1年　村瀬　ゆう

文学部中国文学科1年　和田　彩芽

留学許可書授与式（左から村瀬さん、渡辺和則学長、和田さん）

国際交流センターからのお知らせ

◆団体割引で受験！TOEFLの募集スタート

TOEFL-ITP試験は、正規TOEFLに比べ、約1／3の受験料で受験でき、また正規試験と難易度が同じであるため、将来海外留学を考えている方、現在の自分の語学力がどの程度なのか知りたい方、正規試験受験前の腕試しを考えている方に最適です。ぜひ受験してみましょう。

申込期間　4月1日（月）～5月8日（水）　　**実施日**　5月25日（土）

◆オーストラリア・韓国への派遣留学生募集説明会

場所　九段キャンパス　　**日時**　4月17日（水）、18日（木）　昼休み

◆中国語･歴史文化研修募集説明会

場所　九段キャンパス　　**日時**　5月9日（木）、16日（木）　昼休み

編集後記

◇2月末に、派遣留学生2名が韓国・成均館大学校に旅立ちました。1年間、異国の文化を肌で感じ、成長して帰ってくる日を楽しみにしています。

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。

E-mail: icenter1@nishogakusha-u.ac.jp